



タイ・バンコク中心地から北へ25キロ。渋滞がなければ車で40分の場所に最近、若者を中心に人気の「日本の街」をモチーフにした市場がある。名前は「市場駅(イチバステーション)」だ。

以前は、自動車やバイクが好きな若者が立ち寄る普通の市場であったが、今では、約60の日本風のショップや屋台が並ぶ。そこでは「日本の街」を表現した横断歩道や信号機、自動販売機などのフォトスボットを目にすることができる。

従来、日本文化の象徴と言えば日本食であり、すし、たこ焼きなどが定番であった。また、バンコクで開催される日本博を訪ねれば、色鮮やかな桜や有名な神社仏

タイ・イチバステーション

関を描いたポスターをよく見かけた。2019年までは、タイ人の訪日観光が増え、日本でさまざまな文化を感じ取ることができた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により2年以上訪日機会を失う中、タイの若者は、有名な観光地よりも日常的でありふれた「日本の街」に憧れと興味を持ち始めているという。日本人の交通ルールを守る姿勢やマナーを尊敬する意味で、市場駅に横断歩道や信号機が置かれていると思っていたが、「実は、タイにいながら日本文化に直接触れたい、日本を身近に感じたい若者が多い。それは親日の証」とタイ人は話す。

バンコクを中心に大型ショッピングモールの建設が進み、利便性

店や屋台「日本」を再現

は向上したものの、このモールも代わり映えないことに飽きてきたことも事実。タイは交流サイ

日本の道路標識などが見られる市場駅「タイ・バンコク」



ト(SNS)、特にフェイスブックの利用率が93・3%と高く、市場駅を訪ねたタイ人が「日本の街」の写真を投稿することで、多くのタイ人に認知されている。人気スポットになっているゆえんでもある。

今年は日タイ修好135年の節目。1887年9月の「日暹(にちせん) 修好通商に関する宣言」(日タイ修好宣言)の調印により、外交関係が正式に始まった。タイ国内で、日本を表現した市場や店は至る所にあるが、中国や韓国の街を表現した市場は目にしたことがない。それだけタイは親日の国であり、これからも訪日するタイ人は増えていくであろう。

コロナ禍ではあるが、日本とタイのさまざまな分野でのさらなる交流を期待したい。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)